

命名は初めてのダブル・バスレフ・ウィズ・ホーンという意味である。

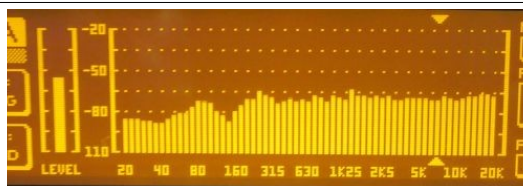
マークオーディオのユニットは高域もはつらつとしているが、ここぞというときに低音がブーストを始めるような感じがあるのがいい。ユニットはマークオーディオ 8cm OM-MF5 を使用。このユニットの音を活かすために BHBS とダブルバスレフの中間的な存在の構造を選んだ。

方式・構造) エンクロージャの構造は当初、BHBS を予定していたが、最初の音道構造では高域が刺激的になったので音道のための仕切り板を1枚取り去り、第一空気室の容量を拡大した。そのためホーン部分は短くわずかに1回半の折り返しであるので、BHの能率は高くない。低音再生には不利となる。音道を短くしたら、やや低音がばやけてきたので第一空気室からの開口部の幅を狭くしていったところ、希望の低音が得られた。このため、この構造はダブルバスレフの第一ダクトの前にショートホーンを付けたとみなすこともできる。この構造でどのような動作になるかよくわからないが、第一空気室からの開口部をダクトとして計算すると共鳴周波数は192Hz、空気室をどこまでみていいのかわからないが、仮にキャビネット全体が一つの空気室と見れば共鳴周波数は56Hz、第一空気室以外を第二空気室とみれば64Hzとなる。これは次に作るときの目安にするための個人的なメモである。

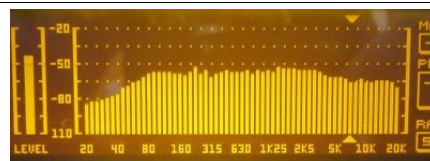
部材) 12mm 厚針葉樹合板がメインだが、細部の工作では適宜MDFを使った。天板とフロントバッフルは2mm 厚シナベニヤを貼り、ウレタンに絵具を混ぜたものを塗ってはサンダーを3回繰り返し。側板は2mm 厚の桜のツキ板ベニヤを貼った。ダクトは48mm 径、72mm 長の塩ビ管を使用、木部と併せて86mm 長である。

サイズ) W:D:H=169mm×306mm×374 mm 重さ 5.2kg

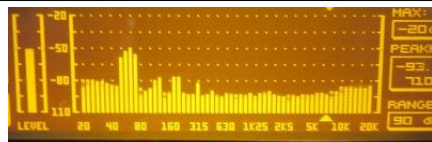
音の評価) 試作の小さい空気室のときよりはよくなった。f特測定したところ160Hz で大きな dip があるのでBHBS というよりはやはりダブルバスレフの特徴が出ているようだ。低域は50-60Hz から反応がある。高域はゆとりがあり、広がりも感じる。



ピンクノイズ、ユニット正面 1m で測定、160Hz に dip がある。



ピンクノイズ、ダクト 10cm は意外にフラット



左) ダクト正面 10cm で周波数スweep。50-60Hz から反応がある。

